

# そよかぜ 12月 園便り

令和6年12月2日(月)

西東京市立そよかぜ保育園

急激な寒さに慌てて冬支度。冷たい風との勝負に負けてしまいそうな時もありますね。  
それでも日差しがあって気温がそんなに低くなければ、砂場で裸足になって遊ぶ子どもたちの姿が…  
ずいぶんとたくましく育っているものだと思います、さすがにもう12月。

戸外で裸足で遊ぶのは春先までお休みすることにしましょう。

11月に保育園の前にある「中原小学校」のオータムフェスタに行ってきました。  
子どもたちが学年毎にダンスや歌、合奏に太鼓…と仲間と共に成長した姿を見せてくれて、“こんなことができるようになるんだな”と、在園していた頃の様子を思い浮かべながら一人感慨にふけておりました。  
それと同時に小学校の先生たち、よくぞここまで導いてくださって…と感謝の気持ちでいっぱいになりました。また子どもたちがこちらに気づいて会釈をしてくれたり、名前を呼んでくれたのも嬉しかったです。

今年度も24名の子どもたちがそよかぜ保育園から小学校へと巣立っていきます。  
折に触れてお伝えしていることではありますが、どんな子どもたちに育ってほしいのか、それには0歳クラスからどんなことを積み重ねていくのか…を考えながら日々の保育を行っています。

丈夫で健康な身体作り・豊かな経験を重ねていくことを土台にして、自分のことは自分でできる、自分の想いを伝え友だちの想いを聞き仲間として協力する、自分の力を信じてあきらめずに挑戦し最後までやりぬく、自分で考えて自分にとって大切な物・より良い物を選び取っていく…など、全て「生きる」ために必要なことだと思います。

そして保育園は子どもたちにとって、これから向かって行く大きな社会への架け橋となる役割があると思っています。

今年度は各クラスで保育参加並びに個人面談を実施していますが、その中でも「こんなふう to 育ってほしい」「この部分がこんなふうになっていくと更に力がついていく」などお話をさせていただいています。これからもご家庭と同じ方向を向いて子どもたちのことを一緒に考え、たくさんお話しできたらと思っていますので、何かありましたら、いつでも声をかけてくださいね。

## < ご協力のお願い >

登園時、ご家庭からの私物(おもちゃ等)を持参する姿が見受けられます。  
子どもにとっては大好きで大切な物かと思いますが、だからこそ「これはお家で遊ぼうね」とけじめをつけて、保育園に持って来るのは控えていただきたいと思います。

また、万が一紛失したり、破損してしまった場合、子ども自身が悲しむこととなりますので、ご理解とご協力の程よろしくお願ひ致します。

.....

## ▼ ホームページの Blog について

毎週金曜日にそよかぜ保育園のホームページにて更新しておりました Blog（園行事、お散歩に行っている公園の紹介など）ですが、今月をもちまして更新を停止致します。今後リニューアルを検討しております。内容が決まり次第追ってお知らせ致します。尚、今までの記事は引き続きご覧になることができます。そよかぜ保育園の一年間の様子やお散歩先の紹介など、ご活用いただければ幸いです。PC やタブレットでご覧の場合はカテゴリーが見やすくなっております。

<https://soyokaze-hoikuen.net/>



## 12月の行事

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
	大根掘り					AM 年長味噌パーティー PM 御陣乗太鼓
8	9	10	11	12	13	14
						餅つき会
15	16	17	18	19	20	21
			布団乾燥	誕生会 避難訓練		
22	23	24	25	26	27	28
		年長『森は生き ている』観劇	クリスマス会			
29	30	31				
年末年始の お休み	～ 1月3日まで	大晦日				

- ・7日（土）AM 年長『味噌パーティー』

今年1月に前4.5オクラスで仕込んだ“お味噌”を、年長クラスと一年生で開け、一緒にいただきます

- ・7日（土）PM『御陣乗太鼓』

園掲示のポスター及びQRコード（右下）より詳細をご覧ください

- ・14日（土）『餅つき会』

詳細は後日お知らせします

- ・24日（火）年長『森は生きている』

年長クラスが毎年読んでいる物語で、物語の歌も歌っている“森は生きている”の劇を新宿サザンシアターへ観に行きます



カサカサ ゴソゴソ 落ち葉に冬の香りを感じ、山茶花の咲き乱れる街並みを眺めながら、暖かいのは嬉しいけど、これでいいのかなあ？ と心配。

軒先に吊り下げられた干し柿 「まだかなー」 「まだまだ！」・・・  
毎日眺めながら「美味しくなーれ！」 「渋ーい柿」が「甘ーい柿」に変わる。待ち遠しいなー。

生活様式もすっかり変わり、冬は「こたつでみかん」いうより、アイスやジュースが登場 食卓にも夏野菜が当たり前のように登場します。街にあふれるイルミネーションやクリスマスソングで年の瀬を思いますが、木々の変化や畑の作物、八百屋の店先に並ぶ品々から季節を感じる事も少なくなり、四季折々の実感も乏しくなってきたこの頃です。収穫した大根で沢庵を漬け、切り干し大根を作り、先人の知恵＝保存食作りに挑戦しています。

### しーん もこもこ によき ……

詩人谷川俊太郎さんと画家本永定正さんの異色の傑作絵本  
以前 谷川さんにこの絵本を読んでもらったことがある。その声には 想いをのせられ、静かに、また力強く 優しく響き、心地よく至福の時をすごした。  
こんなにも豊かな表現があるのだと感動したことを思い出す。

3・11 から半年後被災地陸前高田を訪ねた時 宿の壁に谷川俊太郎の詩「生きる」が掲げられていた。

生きているということ                      いま生きているということ  
それは 喉が渇くということ              木漏れ陽が まぶしいということ  
ふっと あるメロディーを想いだすということ      くしゃみをするということ  
あなたと手を繋ぐこと                      ……

生々しい傷跡の残る処で出会った詩。

泣き 笑い 怒り 愛し、愛する 自然を享受することを示唆する詩 何度も読み返した。

どこで会おうかによって感じ方も異なる言葉。

文字を音（声）にする時 感動を与え励ますことも、傷つけてしまうこともある言葉  
子ども達と交わす言葉。出会う大人たちから溢れんばかりかけられる音（言葉）はどの様に伝わっているのでしょうか。「良かれ」と思い発する言葉で傷ついていないか、今一度立ち止まって考えてみませんか。

その「言葉」

### 職員のつぶやき

私の家には、もうすぐ2歳になる愛犬がいます。たつの子保育園に入職する少し前に1代目が亡くなりました。その子は、私が物心ついた頃から17年間一緒に過ごしてきた子でした。

毎日当たり前のように嬉しそうに飛び跳ねながらお出迎えしてくれた家族が突然いなくなったときは、何か月間も現実を受け入れられませんでした。いなくなってから、あの時こうしてあげればよかったなど何度も後悔しました。

なかなか立ち直れなかったのですが、どうしても一目惚れしてしまい、2代目をお迎えしました。先代のことを思い出すと、自分より先に歳を取ってしまう悲しさが沸き上がることもあります。だからこそ高橋家に迎えられてよかったと思ってもらえるように心がけています。

2代目の愛犬も、毎日これでもかと言うほどお出迎えしてくれることが、今とても幸せです。

羽村たつの子保育園 高橋佳歩